

令和 8 年度

熊本県立大学 文学部 日本語日本文学科

一般選抜（前期日程） 個別学力検査

国語

問題用紙

注意 解答は、すべて別紙**解答用紙**に記入すること。
すべての解答用紙に受験番号、受験者氏名
を記入すること。

□～□の大問ごとに解答用紙がかわる
ので、解答用紙をまちがえないように注意
すること。

試験終了後、この冊子は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(菅香子 『共同体のかたち イメージと人々の存在をめぐって』 講談社、二〇一七年二月)

注 エクスポジション…筆者は、問題文とは別の箇所で、「展示Ⅱエクスポジション」には、さまざまな意味とはたらきがある。「外に置くこと」「さらすこと」「露呈すること」「見せるべく展示すること」「作品を展示すること」。ここで言う「エクスポジション」には、そうしたすべての意味とはたらきを畳み込む」と説明している。

マルティン・ハイデガー…一八八九～一九七六年。ドイツの哲学者。

ジャン＝リュック・ナンシー…一九四〇～二〇二一年。フランスの哲学者。

問一 二重傍線部 a～h の、カタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ改めよ。

問二 次の A～F を見出しとして I～VI に挿入するとしたら、どこに入れるのが適切か。次からそれぞれ一つ選び、符号で答えよ。

- A 芸術作品と共同体の関係
 - B かつての芸術作品の役割
 - C 人間存在と共存性に関わる思索
 - D 芸術作品の展示と「エクスポジション」の変化
 - E 新たな芸術作品のあり方
 - F 共同性への問いと露呈としての「エクスポジション」
- 問三 傍線部(1)は、西暦何年から何年までを指すか。解答欄の形式にあわせ、数字で答えよ。
- 問四 傍線部(2)について、本文で用いられている意味として最も適切なものを次から一つ選び、符号で答えよ。
- ア 閉じ込める
 - イ 具体化する
 - ウ 陳列する
 - エ むきだしにする
 - オ 探しだす
- 問五 傍線部(3)とあるが、表象されたイメージは、なぜそのような機能を持ち得るのか。解答用紙の形式にあわせ、十五字以上二十五字以内で答えよ（句読点を含む）。

問六 空欄 X に入る適切な語を次から一つ選び、符号で答えよ。

ア 仮定 イ 前提 ウ 契約 エ 収束 オ 十分

問七 筆者は本文において、二〇世紀半ばを境とする芸術作品のあり方の変化とその要因について、どのように述べているか。「エクスポジション」という言葉を用いず、次のキーワードを全て用いて一〇〇字以内で説明せよ（句読点を含む）。なお、キーワードには傍線を引くこと。

キーワード…共同体 表象 露呈

問八 二〇世紀に発表された作品を次から全て選び、符号で答えよ。

ア 雪国 イ サラダ記念日 ウ たけくらべ エ 羅生門 オ 小説神髓

二

次の文章は『宇治拾遺物語』巻第八所収の「敏行朝臣の事」の冒頭部分である。よく読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

注 我ばかりの人…自分のような無実の人間。

我がため…自身のため。

愁へ…訴訟。

沙汰…裁判。

軍…軍兵。

道理にて…本来の寿命が尽きて。

問一 空欄 ① ② にサ行変格活用動詞「す」を適切な活用形に直して入れよ。

問二 空欄 X Y に入る仮名一文字の適切な係助詞を記せ。

問三 傍線部 A・B を現代語訳せよ。

問四 二重傍線部 ③④⑤ の格助詞「の」の用法について、それぞれ文法的に説明せよ。

問五 傍線部 Z について、次の問に答えよ。

- (1) この部分の発話者はどのような境遇にある者か、本文の内容に即して七〇字程度で説明せよ（句読点を含む）。
- (2) ここで用いられている敬語と敬意の対象を同じくする敬語を傍線部ア～オから全て選び、符号で答えよ。

問六 二重傍線部 ⑥ を品詞分解せよ。解答は左の例にならって、単語ごとに分割し、各々の右側に品詞等を記すこと。

名詞	格助詞	形容詞(活用・連用形)	動詞(カ行四段活用・連用形)	助動詞(完了・連体形)
雲	の	細	く	た
				な
				び
				き
				た
				る

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

注 高野…和歌山県北東部の山地。真言宗の総本山、金剛峯寺など一群の寺院がある霊場。
花洛…京の別称。

徳大寺…家名。平安時代後期、藤原実能に始まる。西行は出家前その家人であった。

師仲…平安時代後期の公卿、源師仲。

砒霜…三酸化二ヒ素。有毒な化合物。

さいかい…西海子。マメ科の落葉高木サイカチのこと。

沈と香…いずれも天然香料。

四條の大納言…平安時代中期の公卿・歌人、藤原公任。

乳…乳香のこと。同名のカンラン科の常緑高木から採取される香料。

問一 傍線部Aは、「尊い宗教者」の意であるが、この漢字の読みをひらがなで答えよ。

問二 傍線部Bが意味的にかかる語を本文中から抜き出して答えよ。

問三 傍線部Cの解釈として最も適切なものを次から一つ選び、符号で答えよ。

- ア 花鳥風月の情趣を理解しているような友人
- イ 桜の咲く季節の振る舞いを熟知している友人
- ウ 花や月の気持ちを理解していないだろう友人
- エ 梅の季節における和歌の詠みぶりを理解している友人

問四 傍線部Dを現代語訳せよ。

問五 空欄 X に補うべき漢字一字を本文中から抜き出して答えよ。

問六 傍線部Eについて、語り手がこのように考えた理由に当たる箇所を本文中から十六字で抜き出して答えよ（句読点を含む）。

問七 傍線部Fについて次の問に答えよ。

① 現代語訳せよ。

② これに従わないとどのようなことが起きるのか、師仲の発言内容をふまえて説明せよ。

問八 傍線部Gの通り、語り手は失敗を経て「其後はつくら」なくなったわけだが、語り手が失敗したのはなぜか。その直接的な原因として適切なものを次から一つ選び、符号で答えよ。

ア 香を焚いたから

イ 香を焚かなかったから

ウ 沈を焚いたから

エ 沈を焚かなかったから

問九 『撰集抄』は鎌倉時代成立の仏教説話集である。他の説話集とともに成立順に並べたものとして正しいのはどれか。

次の選択肢より一つ選び、符号で答えよ。

ア 撰集抄→西鶴諸国ばなし→今昔物語集→日本霊異記

イ 今昔物語集→日本霊異記→撰集抄→西鶴諸国ばなし

ウ 日本霊異記→今昔物語集→撰集抄→西鶴諸国ばなし

エ 西鶴諸国ばなし→撰集抄→今昔物語集→日本霊異記

四

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の都合上、送り仮名・返り点を省略し、一部文字を改めた箇所がある。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(『狐媚叢談』)

注 国子監助教…国子監は中国の教育行政機関、助教は国子監での教学事務を担う役職。

張簡…人名。

河南…地名。現在の河南省洛陽一帯。

郷学…地域の学校。

『文選』…中国南北朝時代の梁の時に蕭統（昭明太子）によって編纂された詩・文集。唐代以降の科挙試験で重視された。

菜…あかぎ。若葉は食用になる。

問一 二重傍線部①～④の本文中での読みを送り仮名も含めてひらがなで書け（現代仮名遣いでよい）。

問二 傍線部a～cの中で兄が本物の「妹」と思ったものをすべて選び、番号で答えよ。

問三 傍線部Xの正しい書き下し文を次から一つ選び、番号で答えよ。

(1) 兄 来れば遅きを何んせんと。

(2) 兄 来ること何すれぞ遅きかと。

(3) 兄 何の遅きを来すかと。

(4) 兄 来ること遅きを何んせんと。

問四 傍線部Yを現代語訳せよ。

問五 傍線部Zの「是」は「〜である」という判断を示す。それを踏まえて、文脈に沿って「是児」の二文字を現代語訳せよ。